

令和2年度第1回辰野町総合教育会議議事録

【日時】

令和2年9月29日（火）

開会 午後15時00分

閉会 午後16時00分

【会場】

辰野東小学校集会室

【出席者】

12名

（辰野町関係者）

辰野町長 武居 保男

辰野町副町長 山田 勝己

（辰野町教育委員会）

教育長 宮澤 和徳

教育長代理 根橋 久人

教育委員 垣内 由佳

教育委員 関 政彦

教育委員 萩原 多恵子

（事務局関係）

総務課長 加藤 恒男

生涯学習課長 西原 功

こども課長 菅沼 隆之

こども課長補佐

兼学校教育係長 桑原 さゆり

学校教育係 向山 倅生

【傍聴者】

6名

1. 開会のことば

＜加藤総務課長＞

ただいまから、令和2年度第1回辰野町総合教育会議を始めたいと思います。総務課長の加藤でございますが、次第に沿って進行させていただきますのでよろしくお願いいたします。

2. 町長挨拶

＜武居町長＞

先程は授業参観、大変お疲れ様でございました。できれば、あと1時間くらいは授業を観たいなと気がしております。先程、英語あそびを初めとしまして、音楽や理科の専科授業、またICT機器のタブレットを活用した学習であるとか、少人数学習、教科担任制による授業と、非常に幅広いタイプの授業を観させていただきました。これも、子どもたちの教育がどうあるべきかを試行錯誤しながら研究に取り組んで来られた成果かと思えます。また、学校の先生方、教育関係者の皆様に心から敬意と感謝を申しあげたいと存じます。

さて、本日の総合教育会議ですが、本来ならば、7月頃に今年度の第1回目の開催を予定しておりましたが、あいにくコロナの影響で本日になりました。

新型コロナ感染拡大防止の観点から、学校の休業、あるいは再開時期を巡る問題、また夏休みの期間、また再開後の授業、家庭学習のあり方等、教育委員の皆さんにはご心配をお掛けするとともに、様々なご意見を頂戴しながらやってきました。厚く感謝申し上げます。ありがとうございました。

本日の会議においても、今後の辰野町の教育行政のあり方について、様々なご意見をお聞かせいただければと思います。

そして、もう一つここで申しあげておきたいことがございます。川島小学校の存廃を巡る問題であります。平成30年3月に、3年間のチャレンジ期間をいただきたい旨を表明し、早いもので3年目を迎えております。この問題につきましては、去る8月28日に行われました女性団体連絡協議会の町政懇談会において、また今月開催されました町議会の一般質問においてもお二人の議員より質問をいただいたところであります。これらのご質問に対する私の答弁は、遅くとも年明け1月末をめどに考えをまとめたいと申しあげ、まだまだ現状分析、多角的な観点からの透察を進めなければならない段階でございます。今日は、教育委員の皆さん全員がお集まりですので、この問題についても議題として取り上げたいとも思いましたが、時間の制約もございまして、またの機会にぜひ教育委員の皆さんのお考えをお聞かせいただきたいと思いますのでご了承ください。ありがとうございます。

それでは、本日の会議によって、さらに明るい方向性が見出されることを期待しまして、挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

3. 教育長挨拶

＜宮澤教育長＞

こんにちは。お忙しい中、お集まりいただきました。ありがとうございます。

今年度の第1回目の辰野町総合教育会議でございますけれど、先程、町長が申しあげましたとおり、新型コロナの関係で延びてしまい、今日の開催になりました。会場は辰野東小学校をお借りして、授業参観後の総合教育会議ということで、授業参観を通して感じられたことも含めてご意見を出していただければありがたいなと思いま

す。

総合教育会議の目的にありますように、辰野町の教育行政、あるいは教育施策について町長と教育委員会とがお互いに意見を交わしながら、共通理解を図り、ともに進めていくための会議ということになります。町長貴局には常に教育現場の状況を理解いただいております。ここにまず感謝申し上げます。

さて、今年の2月頃から感染の拡大が始まりました新型コロナウイルスによって小中学校の臨時休業措置が取られ、児童生徒は家庭に籠る生活を強いられました。保育園においては在宅保育を依頼することになり、町の社会教育施設、体育施設も閉館となりました。町民においては、見えないコロナウイルスを意識した生活を強いられるようになりました。ここに来て、様々な動きも見られるようになりましたけれど、まだまだ収束のめどは立っておりません。

この学校の臨時休業を通して、また新たな課題も学校現場において出てまいりました。それは、学校のあり方と家庭学習、オンライン学習の部分でございます。文部科学省は、GIGA スクール構想の前倒しを発表し、一人一台のタブレット構想も急速に進んでおります。辰野町でも ICT 教育支援主事の下で迅速に整備計画が策定され、整備も進められようとしています。子どもを取り巻く環境の変化は激しく、指導に当たる先生方もこの対応に振り回されてしまうような面もありますけれど、児童生徒の学びのために先生方には腰を据えて指導に当たっていただきたいと思っております。

町の教育委員会としてもたくさんの課題があります。その中で、今年度新たに辰野町独自の施策として、一つは英語あそび、それから高学年の教科担任制と少人数学習、まだまだ検討しなければならない部分もたくさんございますけれど、文部科学省より先立って、辰野町でいち早く始めたものでございます。

今年度は、先程町長が申しあげましたが、総合教育会議をもう1回開催する予定でございますので、今日は授業参観をされての様子、それからコロナ禍の中での学校、将来を担う児童生徒のより良い学びの環境、あるいは保育環境、町の施策の今後についてを中心に協議いただければと思います。

よろしく願いいたします。

4. 協議および意見交換

(1) 東小学校授業参観の感想

<武居町長>

非常に幅広いタイプの授業を40分の中で観させていただきました。そういった中では、もう1時間くらい欲しいなと思いました。今、振り返ってみますと、英語の先生が子どもたちの元気さを上手く引き出しながら授業をやっておりました。2クラスを3クラスにした少人数学習も能力別に分けていて、きめ細かな指導体制を取り入れているなど感じました。

<山田副町長>

辰野町の場合、2月23日のNHKののど自慢が終わった次の週から全てが自粛となってしまいました。勘定をしますと、7ヶ月になります。7ヶ月間というのが一番犠牲になってしまったのは、子どもたちなのかなととても感じております。全ての思い出をストップさせてしまったということで、教育長が一番心配したところでもあります。でも、今日の子どもたちの明るい姿を見ますと、ほっとしたのが一番の感想になります。

授業の感想ですが、みんな楽しそうでした。私のイメージが古いのか、授業中は静かにしてなさいというイメージがあったのですが、どの授業も子どもたちが

自由に発言している姿がすごい印象的でした。少人数学習ですが、一番最初に人数の違いが気になりました。校長先生に確認しましたら、人数の少ないクラスは能力的に別室にしているという話を聞きまして、どういう授業の違いがあるのだろうと思って観たところ、さっぱり分かりませんでしたので、またゆっくりそういったところも観させていただけたらありがたいと思っております。

あと一つ、要望なのですが、タブレットをこのコロナの関係で全児童に配布します。今日、一番観たかったのが、子どもたちがタブレットをどのように使っているのかを授業で観たかったのですが、実際に使ってなかったのも、またの機会にぜひそんな授業も拝見させていただければありがたいなと思いました。

<宮澤教育長>

授業参観、ありがとうございました。40分ということで、全クラスを回することは非常に厳しいなと思いました。

今日一番感じたことは、子どもたちにとって最大の教育環境は先生だなど、そんなふうに思いました。1、2年生は比較的元気でやっていて、3年から4、5、6年と上にいくに従って、自分の意見を言わなくなってしまう傾向があるのですが、今日の授業を観たときに先生の授業によって、5年生でも6年生でも自分の意見をどんどん言っている場面もありました。上手く子どもたちの気持ちや思いを引き出しているなど、開放してあげられている先生がいるなと思いました。

昨年の11月に東小学校で全学年、学級の授業を公開した時には、全クラスが英語の授業でした。あの時は、どのクラスも電子黒板を使いながら授業をやっていたので華やかさがあつたわけですが、今日はそういった部分は少なかったですが、場面に合った使い方をしているなと思いました。

ちょっと残念だったことは、体育の授業でタブレットが全然使われてなかったことです。子どもたちが自分たちで撮って、お互いに深め合うという部分があると良かったなと思いました。

<教育委員>

1年から6年まで全部の授業を観させていただきまして、全員がマスクを着用しての授業風景だったのですが、コロナを感じさせない授業風景だったなと思えました。楽しく、明るい授業をしているなど総体的に感じました。

そして、私が特に観たいと思っていた5年生の少人数学習と6年生の教科担任制の授業に興味を持って観させていただきました。少人数学習は先生が上手く目が届くような配置になっており、良い取り組みだなと感じました。6年生の教科担任制は、先生にやはり知識があるせいか、上手な授業がされているなど、上手く返答しているし、子どもたちとの話も上手いなという気がしました。教科担任制はこれからもやっていってもらいたいなと感じました。

そして、英語あそびですが、普通の授業とは違う雰囲気、とても楽しい雰囲気だなと感じました。

<教育委員>

観させていただいて、英語あそびの2年生とか、本当に楽しそうで、子どもがこういう授業を受けていれば英語が嫌いにならないだろうなと羨ましく観ていました。

少人数学習は、私の子どももそうだったのですが、5年生くらいから算数はつまずいてきて、あのようにレベル別に分けていただけたときめ細かに指導ができること

思うので、とても良い取り組みだと感じました。

教科担任制は、自分のクラスの担任ではなくても、子どもたちがとても自然に授業を受けていて、先生たちと子どもたちとで良い関係を築けているなどと思いました。

<教育委員>

子どもたちの様子が非常に心配されていたわけですが、どのクラスも共通して子どもたちが元気で、活発に発言しているところが大変嬉しく思いました。

ICTに関しましては、私が観た感じですと、上手く電子黒板を使っていたクラスもありましたし、オーソドックスな紙ベースのものを使っていたクラスもあったわけですが、これについてはあくまでも先生のスキルの問題だと思います。教育長が仰ったように、ICTを使ってやるのがツールの全てではないですけど、やはり基本的にはICTを使えるということでない、せつかく町費を使って導入しているわけですので、あえて使わないという意味の授業はあっても良いと思いますが、先生たちに頑張って使い方を覚えていただいて活用していただきたいと思えます。今日観させていただいた授業の中には、電子黒板とタブレットを繋げればもっと面白くできるんだと思う部分もあったので、先生たちのご負担にもなると思いますが、そういった方向性が出されているということで乗り越えていかなければならないのかなと思います。教育委員会や我々も、先生たちを支えるようなこともプラスで考えていくことが必要なのかなと思いました。

英語あそびは、非常に楽しそうにやっていて、前回の授業からの継続感がすごく、この前はこういうことをやったよねというところに対しての子どもたちの反応がすごく良くて、印象的でした。あのような姿が高学年でも継続されて中学へ向かっていくことがあれば非常に効果的だと思います。

高学年の少人数学習と教科担任制ですが、高学年になると、子どもたちが上手く、先生のボケに対してもちゃんとツッコミを入れていて非常に大人だなと感じました。それだけ、子どもたちが授業を楽しく感じている、子どもたちがリラックスして伸び伸びと授業を受けている環境が非常に良いなと感じました。

<教育委員>

英語あそびの先生がずっと英語で話をされていて日本語を一切使っていなかったのですが、子どもたちはそれを聞いて日本語で返すんですけど、英語をちゃんと聞き取って返事をしていて、耳が育っているんだなと感じました。このまま続いていけば、英語が嫌いにならずに楽しく勉強していくことができるのかなと思いました。

理科の授業は、子どもたちがとても楽しそうで、先生の回りに寄っているいろいろと質問したりしている姿を拝見したので、この環境が来年以降も続くのならば、子どもたちはきっと理科が大好きになるのかなと強く感じました。

6年生の教科担任制は、担任の先生が入れ替わって授業をしていることをお伺いしていたのですが、子どもたちが何も違和感なく、ごく自然に授業を受けていました。勉強の内容の難しさが増していると思うんですけど、先生たちがどうやったら子どもたちの興味を引けるのか専門的にやっているの、上手く引き出してくださっているなと感じました。とても良い形だなと実感しました。

子どもたちがお隣同士で、難しい問題を教え合ったりしていて、リモートでの授業だとそういうことができないので、今までの当たり前の風景を今日観ることができて、やはりみんなが集まって授業することはすごく良いなと実感しました。

<加藤総務課長>

私も授業を拝見して、学校の授業をこんなに楽しくできていたかなと感じました。コロナ禍を全く感じさせない中で、特に英語あたりは身近な形で勉強できることはとても良いことだなと実感いたしました。

(2) 今後の辰野町の教育行政のあり方 【資料 No.1】

①小学校における「英語あそび」、「専科授業」、「教科担任制授業」

②コロナ禍における小中学校の学びについて

・宮澤教育長より【資料 No.1】について説明。

低学年の英語あそび、小学校における教科担任制授業の導入、ICT 機器を活用した学習について説明。

(3) 保育園個別施設計画策定・平出保育園の今後の方向 【資料 No.2】

・菅沼こども課長より【資料 No.2】について説明。

辰野町保育園個別施設計画を策定中であることを報告。

(4) 社会教育施設の今後の方向 【資料 No.3】

・西原生涯学習課長より【資料 No.3】について説明。

公共施設の Wi-Fi 環境整備、たつの未来館アラパの今後の運営について、荒神山スポーツ公園に関する運営協議会等の設置について説明。

(5) 意見交換

<教育委員>

いろいろなことを導入していくと、人員が必要になっていくと思います。これからの子どもたちの学びのために人員の適材配置が必要になるのかなと思います。

<宮澤教育長>

一番難しいところであります。国の方も、財務省あたりはこれから子どもの数が減っていくので、これから 5 年間で 4 万人教員がいなくなるという試算もしています。一方で、文部科学省では 2022 年から小学校の高学年で教科担任制を導入すると言っていますが、それに対して教員が確保できるかどうか非常に難しいと思います。県はどうかと言いますと、定数法によって教員の人数を決めています。学級の数がいくつなのかで、教員の数が決まってしまう。学級の数が減るということは、教員の数も減るということです。1 学級減ってしまうと、教員 2 人が減ってしまいます。このことは、学校にとって非常に厳しいことです。その分を町費の先生を確保して補っていくことになります。辰野町として、町費の先生で、教育支援員やほっとサポートなどかなりの人数を配置しています。その先生たちが上手く現場で関わっていくことができれば、今日のようにいろいろなことができるのかなと思います。

<山田副町長>

今日、観させていただきまして、3 年 2 組の理科の授業と音楽の関係にほっとサポートの先生たちがいました。このほっとサポートの先生たちは、どういう授業に何人くらいずつ入って授業をしているのか聞きたいなと思いますが、どうでしょうか。

<宮澤教育長>

これは、それぞれ支援の必要な子どもがどういう状況なのかによって配置をしているわけです。理科の場合は、たくさん先生がいるなど今日、感じたと思いますがその中で年配の男性の先生は、実は町費の理科の先生なんです。あの先生は学校現場を全く経験していません。理科の免許を持っているのですが、経験がないので修行をしてもらっている状態です。修行をしながら、南小学校と川島小学校の理科室の整備も含めて回っていただいております。ですから、あの先生が独り立ちできるようになると大変ありがたいと思っております。

<山田副町長>

ほっとサポートの先生は、基本的に子どもに付くということですか。

<宮澤教育長>

そういうことです。その子が落ち着かないと授業がめちゃくちゃになってしまうとか、飛び出してしまう危険があるとか、そういう子に付いて授業を行っているわけです。

<山田副町長>

ICTの関係で、今はICTの支援員を1名配置しているのですが、やはり補強していかないとと思い、来年は1名増やそうと考えています。今、ちょうど新規採用の募集をして、募集の申し込みがありましたので、ICT関係に長けている人がいたら確保したいなと思っております。

<加藤総務課長>

先立て9月8日に、国のワーキンググループ教育再生会議というものがあるみたいですが、その会議の中で、新型コロナ等々を考えていくと、おそらく少人数学級が令和のスタンダードの形になり得るのではないかという答申を出していくという動きもあります。そういった部分があれば、人員のところも補強してもらえるのかなという期待も持ったところでもありますので、今後も注目していきたいと思えます。

<山田副町長>

資料の、今後のICTのあり方の先生方の意識調査のところ、約2割の先生が実施したくないというふうになっていますが、先生方の率直な気持ちが出ていると思います。その実施したくない理由が、ICTの授業に対する問題なのか、自分自身の技術的な面の問題なのか、どちらになりますか。

<宮澤教育長>

私がそれぞれの学校に行って授業参観する中で、後者だと思えます。やはり自分に技術がないからできないということです。ICT機器を使う際にもたついてしまうと時間だけが過ぎてしまうので、スムーズに使えないと意味がないんです。今日はなかったのですが、デジタル教科書も入っております。ですので、これもどんどん使っていけば上達していくと思えますが、技能がないから抵抗感があるということです。苦手な先生たちも一度授業で使ってみて、まずは抵抗をなくしていくことが必要だと思っております。

5. 総括

(1) 町長

今日はありがとうございました。

総括にはならないかもしれませんが、今日感じたことがあります。この会議の冒頭に副町長の方から話が出ましたが、自分たちの昔の頃は、という言葉に私もハッと思いまして、確かに、姿勢は正しく、静かに私語を言ってはいけない、ひたすら先生の顔を見て、板書を書き写すという感じでした。その一方で、今日実はあるクラスで、先生に怒られていましたけど、勝手に席を立ってトイレに行ってしまうという場面がありました。ある程度規制をしなければいけない世界と自由な世界を今日いろいろな場面で見れました。先程も言ったとおり、子どもたちが生き生きとして学んでいる方がより身に付くのかなと思いました。

私たちの世代は、読み・書き・そろばんの時代でした。国語では必ず辞書がありました。今では、辞書を引くという言葉自体が死語になってしまい、言葉を検索する、言葉を打つというふうになっています。今は本当にスマホの時代になってしまいました。今のタブレット学習も分からなくはないですけど、あれで本当に知識が身に付くのかなと、まだ私自身に懐疑的な気持ちもあります。昔は、漢字の書き取りを何十回何百回とやったり、厳しい先生に習ったりしましたが、今の小学生はこれで、はたして学力が身に付くのかなと思うのが一つです。

もう一つ感じたことは、今日実はとても楽しみにしていたのが、あさひ美術館です。東側の地区は、本当に偉大な芸術的な美術家が多数輩出されております。今年、ある新聞の全国紙にこの東小学校のあさひ美術館が紹介されて、結構問い合わせもあったようであります。こんなに素晴らしい芸術家方を輩出した土地柄の中で、ちょっと感じたことがあります。例えば、瀬戸團治先生や松井芒人先生などいっぱいいらっしゃいますけれど、もしこの先生方が、その時の先生に算数を一生懸命やれとか理科を一生懸命やれなど、徹底的に言われていたら、このすごい芸術家は生まれなかったんだなと思ったところです。やはり人間は、元々何かの才能が宿っていてそれを開花する、その凄まじい過程を大事にしていかなないとかなと思います。

最近、たまにテレビを見ていまして、大きな変化が出ているなと感じています。テレビでクイズ番組をよくやっていますが、去年や一昨年は、東大、京大あるいは早稲田、慶応など有名私大の皆さんが出演した番組が主流でした。でも、今はみんな東大になってしまっています。これは、テレビ局が東大ブランドに縋っているんです。東大は東大でそういったテレビ業界への輩出や会社を作ったりしていますので、もうこれはすごい世界だなと、ちょっと嫌なのが東大以外は学校ではないみたいなふうになっており、東大ブランドの凄さを感じております。

スポーツに秀でている子、芸術や美術に秀でている子など、いろいろな才能があると思いますので、私はそういう才能を見出せるような教育を辰野町でつくっていったらなと思います。

今日は大変お疲れ様でした。

(2) 教育長

今日はありがとうございました。

今、町長から逆に発破をかけられたなとそんな感じがしております。

何気なく教室の中を見ていましたけれど、去年設置したエアコンが教室にありまして、3年前は、学校や保育園にエアコンを設置することは考えたことがなかったです。そして、またコロナが無ければ、タブレットを一人一台配布することも考え

たことがなかったです。私はどちらかと言うと、タブレットを一人一台配布することはもったいない、無駄だとそんな思いで今まで来たのですが、このコロナによって考えが変わってしまいました。

ここ数年、気象の変化や社会情勢の変化、自然災害などいろいろなことが起こっている中で、社会の価値観だとかいろいろが変化してきている、その中に学校現場や教育があると感じております。この変化がこれから先、益々激しくなっていくんだらうなと思うと、2年先、5年先とどんな学校を描いたら良いのか、どんな保育園やその他の施設を頭の中に描いたら良いのか、非常に難しいわけであります。とんでもない発想で、今では想像のつかないような考え方で教育を進めていかなければならないのかなと、そんな気がしています。

だけど、私たちが子どもの頃と今の子どもたち、それから10年、30年後の子どもたちは、子どもとしては変わらないはずで、変わっていくのは、まわりと社会だけです。子どもたちが変わらないということは、私たちが10歳くらいの時に友達や先輩や後輩とかと関わってきたことや、全身で野山を駆け回って学び、体験したことを覚えていることは、今の子どもたちも10年後の子どもたちも必要ではないのかと思っております。そうすると、先程オンラインの話題も出ましたが、所詮オンラインはバーチャルの世界です。これで全ての教育が済んだような勘違いをしてしまうと、とんでもないことになってしまうなと思います。ICTを上手く使っていかなければなりません。ICTを使うことが目的になってはいけません。やはり、子どもたちには五感で、全身で体験させることをしていかなければいけないんだなと感じております。

この竜東地区からは偉大な芸術家が何人も出ていると言いますが、バーチャルの世界だけで学んだ子どもたちからは絶対に芸術家は出ないと思います。私は理科の教員でしたが、残念ながら自然科学者は絶対生まれません。自然科学者というのは、やはり子どもの頃から自然の中にどっぷり浸かって、全身で泥を浴びたり、裸足で田んぼの中に入ったり、野山を駆け回ったりして、匂いを感じたり不思議を感じたりして、その延長で科学者が生まれると思うんです。だから、本当に気をつけていかないと、これから日本を支えていく科学者や科学の最先端を喘ぐような人たちは輩出されないんだらうなと、非常に厳しい時代に入っていくんだらうなと思います。

このようなことも踏まえて、これからも学校のあり方に関して考えていかなければならないなと思っております。

本日はありがとうございました。

6. 閉会のことば

<加藤総務課長>

以上をもちまして、第1回総合教育会議を閉会といたします。

ありがとうございました。